



ユニセフ・バザーを成功させよう

～世界の困っている子どもたちのために～

報告者 静岡県立静岡聴覚特別支援学校（静岡聾学校） 守屋 知恵子先生

ポイント

静岡県立静岡聴覚特別支援学校では、毎年立春の頃に、小学部児童会が中心となって「ユニセフ・バザー」を開催します。全校や交流している近くの小学校に呼びかけ、家庭で眠っている不用品を集めて売り、その売上金をユニセフに送る活動です。児童会の4、5、6年生は、日頃、本部と3つの委員会に分かれて活動しているので、それぞれ1つずつ店を担当し、品物の仕分け、値付けなどの準備を進めていきます。それと並行して、世界の子どもの暮らしやユニセフの役割などについて、学年ごとに調べ学習を行い、「ユニセフ発表会」で発表し合います。低学年も一緒に発表を聞き、小学部全員で「世界の困っている子どもたちを助けよう」という目的を確認してから、バザーに臨むことにしています。当日は、募金箱も置きます。例年、中学部も手作り品を販売して協力してくれます。

ユニセフ発表会

4年生



水くみの体験をしました。大変だ。時間がかかる。

5年生



家のない子どもいます。

6年生



2億5千万人以上の子どもたちがつらい仕事をしています。

ユニセフの仕事は重要です。



準備開始！

きれいに並べよう。



ユニセフ・バザー



いらっしゃいませ。



やったあ。バザー大成功！！



ユニセフ発表会では、写真や絵などをたくさん用意して、クイズなども交えながら、低学年にもわかるように工夫して発表しました。どの子の目も真剣で、世界には戦争や貧困などで苦しんでいる子どもたちがたくさんいることや私たちが様々な面で恵まれていることを再認識する機会となりました。今年のバザーは、児童会本部が日用品・食料品、図書委員会が図書・ビデオ・果物、美化・保健委員会が文房具・バッグ、遊び委員会がおもちゃを担当し、グループごと品物の値段、並べ方、宣伝方法などを工夫し、売上金アップを目指しました。当日は、幼稚部、小学部、中学部の子供、教員、保護者に加え、地域の人も訪れ、大盛況。全員で協力して売上金を計算したところ、予想を超える金額に大歓声が上がりました。早速、代表で6年生が近所の郵便局に行き、ユニセフに送金しました。人のために、友達と協力し合いながら自主的に取り組む良い伝統が受け継がれています。今後も、人と人とのつながりや物を大切にすることを大事にしていきたいと思えます。